



大黒町
梅原 太一さん



埼玉県
久喜市

私は福島県に来て5年目になります。就職の縁があり、初めに矢吹町で1年半ほど過ごし、2年半前に須賀川市にきました。

私のふるさは、埼玉県東部の久喜市です。平成22年には久喜市、菖蒲町、栗橋町、鷲宮町が合併しました。また東北道、圏央道、国道4号、国道122号が通り、周辺の地域へのアクセスも良く、近年発展してきました。

久喜市では幼少期から20年以上過ごし、今でこそ住宅街ですが、昔は自然が多くあり、カブトムシやトンボを捕まえたり、友達とキャッチボールをしたりして遊びました。夏には久喜市名物の「提燈祭り」が行われ、市外からも多くの方が訪れにぎわいます。一番の見所は夜の部です。500個の提燈を山車に灯し、笛や太鼓の音に乗せ、回転させながら市内を巡回する様子はとても迫力があります。

須賀川市で開催される花火大会や松明あかしを毎年楽しみにしています。去年は花火大会が中止となってしまいましたが、今年開催できることを心待ちにしています。また、県内には観光スポットも多く、これからも福島を満喫したいです。



サークルとわたし



おはなしの会ラ・ポム

代表者 矢ヶ崎 悦子
会員 9人
発足年月 平成15年4月
連絡先 ☎(76)8499
活動日 毎月第1・第3水曜日 ほか
活動場所 中央図書館 ほか

私たちは発足18年を迎える、乳幼児向けのおはなしの会です。名前の「ラ・ポム」とはフランス語で「りんご」です。赤ちゃんにとって身近な果物のりんごのように誰からも親しまれ、笑顔になれる存在でありたいと願い名付けました。

主な活動は、中央図書館で毎月第3水曜日に行う「おひざにだっこのおはなし広場」です。そのほか、市内の子育て支援センターやこども園、幼稚園、保育所などでも活動し、子どもたちから笑顔や元気をもらっています。

絵本やわらべうた、おはなしなどを通して、親子の心のふれあいや新しい世界への出会い、言葉と心を育む豊かな一時となるようなお手伝いが少しでもできたらと活動しています。皆さんと一緒に活動してみませんか。



tette 情報



tetteでは、感染症対策を取りながら順次講座を再開しています。参加するときは、感染防止にご協力をお願いします。詳しくは、tetteホームページでご確認ください。



tetteホームページ



TETTE.SUKAGAWA
tetteInstagram

■ tetteスクールなど

市民交流センター ☎(73)4407

tetteライブラリースアター

「世界名作アニメ ピーターパン」

2月6日(土) 午前10時～11時30分 ※先着60人

tetteスクールシニア 「操体法」

2月9日(火) 午前10時～11時30分 ※事前申込

第6回サポセンフェスティバル

2月11日(木・祝)～15日(月)

※これまでのイベント形式ではなく、動画上映や展示などでサポセン登録団体を紹介します。

tetteスクール 「GO TO 健康生活セミナー」

2月20日(土) 午前10時～11時30分 ※事前申込

■ 図書館だより

中央図書館 ☎(75)3309

こども読み聞かせ会(読み聞かせの会ポケット)

1月9日(土)・23日(土) 午後2時 ※自由参加(定員20人)

おひざにだっこのおはなし広場(おはなしの会ラ・ポム)

1月20日(水) 午前11時 ※自由参加(定員30人)

■ こどもセンターだより

こどもセンター ☎(76)6687

ママカフェ

1月14日(木) 午前10時～11時 ※事前申込

子育て支援講座 「冬に役立つアロマスプレーをつくろう」

1月21日(木) 午前10時～11時 ※事前申込

親子イベント 「節分グッズをつくろう」

1月27日(水)からキットを配布 ※事前申込

■ tette動画を配信中

生活に役立つ情報をはじめ、家族で楽しめる工作や体操などの動画をtette公式ホームページやInstagramで配信しています。ぜひご覧ください。



うちdeエクサ



手作りうどん

ふるさとの遺産

須賀川アルバム
-昭和の記録写真から-

No.317

消防団の出初式
(昭和40年代)



一糸乱れぬ行進は新春の風物詩です

写真は消防団の出初式の様子で、ラッパ隊の音楽に合わせて刺し子の法被を着た団員が街中を行進しています。

出初式は、江戸で発生した明暦の大火(1657年)からの復興を願い、1659年1月4日に江戸の定火消によって上野東照宮で行われたのが始まりです。その後、次第に儀式化されて各地に広まり、今では年恒例行事となっています。須賀川の出初式も毎年、年始に行われ、各地域の安全を守る消防団員が一堂に集まります。防火・防災意識の啓発や団員の士気を高めることはもちろんですが、危険を伴う災害現場で活動する団員の安全祈願の意味でも欠かせません。今も昔も消防団は昼夜を問わず、地域の皆さんの生命や財産を守るため、防災活動や訓練に励んでいます。